



知床科学委員会 しんぶん

科学委員会本体会議 NO. 3



「知床で今何が起きているの!?!」「どんな調査が行われているの!?!」など、タイムリーな情報を科学委員会から皆さんにお伝えします。

科学委員会って?

科学委員会は、様々な分野の専門家が集まり、知床世界自然遺産のよりよい保安全管理のためのアドバイスをする組織です。科学委員会の下には、分野ごとに4つの関連会議が設置されています。

今回の会議

7月24日(火)に羅臼町商工会館にて、今年度第1回目の会議がありました。

必見!
TOPIC

世界遺産委員会、知床を審議

前号でお知らせしたとおり 2012年6月下旬から7月上旬にかけて、ロシアのサンクトペテルブルクで、第36回世界遺産委員会が開催されました。



サンクトペテルブルク(ロシア)の会議の様子

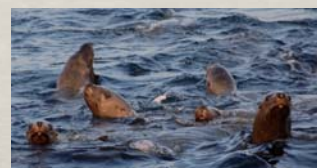
この委員会は、新たな遺産への登録審査のほかにも、世界遺産の価値がきちんと保たれているかについても話し合います。今回は、以前委員会より出されていた17の宿題(勧告)に対する知床における取り組み状況について審議されました。

その結果、2項目について改善するよう指摘されましたが、一方、これまで知床で行ってきた取り組みと努力が認められました。



改善しなきゃいけない「2項目」って?

- ✓ ルシヤ川におけるサケ科魚類の移動と産卵を確保するため、既存のダムのさらなる改良
- ✓ 遺産地域内のトドの個体数の動向と捕獲数の把握



羅臼沖に現れたトドの群れ

知床が世界遺産であり続けるためには、世界遺産委員会でその価値(自然)をしっかりと保つ取り組みを行っているかチェックを受け続ける必要があります。改善の指摘があった2項目は、2015年2月までに対応状況を報告することになりました。

①各ワーキンググループ等の検討状況

②世界遺産委員会について

③気候変動戦略について

⑤知床国立公園管理計画改定について

—気候変動戦略—

ています。

地球温暖化は平均の気温や海水温が長期的に上昇する現象です。科学委員会は、知床の自然環境に大きな影響を与える可能性のある気候変動に注目しており、それに対応するための戦略を作ろうとしています。気候変動は地球規模で起こる現象のため、知床という限られた地域について把握・予測することは困難でし

たが、現在北海道大学のグループにより細かいスケールで予測できるシミュレーションプロジェクトが進行中です。気候変動のおおよその予測ができたなら、陸域や河川で今後どのような対応をするのか、その戦略を作ることが可能になると期待されます。

◆環境変動の指標

環境変動をはかる「ものさし」のひとつとしてオシヨロコマが検討され

ています。シマフクロウにとって重要な食べ物であるオシヨロコマは冷たい水の中でしか生きることができません。温暖化にともない川の水温が上昇すれば、オシヨロコマの数が減少する可能性があります。



オシヨロコマ



例えば…

がうまく共存できるのか、ヒグマに対する考え方や対応方法をまとめたルールブックのようなものなのです。この方針では、人前に姿を現したヒグマに対してどのような対応を行うのかを場所やヒグマの行動（人を見て逃げるか逃げないかなど）別に定めています。今後、状況を観察しながら対策を続け、5年後に課題や問題点の見直しを行う予定です。

★国立公園の道路沿いで

ヒグマの自撃があった場合

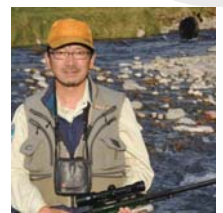
①人を見てもヒグマが逃げない場合

→ 追い払いをする

②人為的な食べ物にヒグマが餌付いている場合

→ 捕獲する

委員の山中です。



ヒグマのDNA採取調査

4月から委員になりました。知床を世界のひのき舞台に出しても恥ずかしくない国立公園に変えるべく、活動して参りました。世界遺産登録はそのための追い風になるでしょうし、また、そうならなければ世界遺産とは言えません。五十年、百年後でも、人々に感動を与え続けることができる、そんな知床をめざしませんか。

委員 山中 正実



知床財団から知床博物館に異動。学生時代から知床の自然環境の調査研究、保全活動に関わってきた。知床博物館長。